

## 2023 年度 日本臨床検査医学会 第 1 回理事会 議事録

日 時：2023 年 3 月 26 日（日）13：00～15：00

開催方法：Zoom 会議（ホスト会場：学会事務所）

事務所出席：大西宏明理事長、田部陽子副理事長、〆谷直人会計理事、古川泰司総務理事、  
古田耕監事、諏訪部章監事、野澤孝志会計顧問（7 名）

Web 出席：木村聡、日高洋、松下一之、満田年宏、森兼啓太、吉田博、井上克枝、下正宗、堀田多恵子、  
矢富裕 各理事

高橋聡、志村浩己、東田修二、伊藤弘康、山崎正晴、大澤春彦、柳原克紀 各支部理事（17 名）

### I 理事長挨拶（大西宏明 理事長）

開会に先立ち、2023 年 2 月 4 日に逝去された功労会員の中村正夫先生（享年：98 歳）を悼み黙祷が捧げられた。

その後、満田年宏理事から病状報告があり、大西宏明理事長から挨拶があり、会議時間が限られているため審議事項から行うことが伝えられ理事会の議事を進めた。報告事項の一部は資料を確認いただけるように依頼された。

### I 報告事項

#### 1. 支部報告

各支部報告の 2022～2024 年度の支部例会・総会の開催報告と予定、支部所属の人事変更等について書面により報告された。

#### 2. 各種委員会報告

##### ①学術推進化委員会（矢富 裕 担当理事）

2023 年度学術推進プロジェクト研究課題を公募中であること、応募数拡大のため方策を検討したことが書面により報告された。

##### ②編集委員会（吉田 博 担当理事）

2022 年 12 月 28 日に、英文誌「Laboratory Medicine International (LMI)」の創刊号 1 巻 1 号を刊行したこと、2023 年 3 月に LMI 論文投稿システム ScholarOne Manuscripts 稼働予定のこと、編集委員会規定を整備したこと、第 70 回学術集会で国際委員会と合同で委員会企画を検討していることが書面により報告された。

##### ③標準化委員会（日高 洋 担当理事）

日本臨床化学会と共同で C ペプチドの標準化の検討を行い、日本臨床検査薬協会へ事業計画書を提出したことが書面により報告された。

##### ④ガイドライン作成委員会（吉田 博 担当理事）

臨床検査のガイドライン JSLM2024 作成の準備をしている。ガイドライン作成委員会規定を整備したことが書面により報告された。

##### ⑤ 学術集会企画委員会（日高 洋 担当理事）

2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）、長崎市で第 70 回学術集會を、柳原克紀会長のもと現地開催予定であること、2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）、大阪市で、第 71 回学術集會を日野雅之会長のもと、現地およびオンデマンド開催予定であること、日本医学会連合加盟学会連携フォーラム共済事業については会長の判断に任せ関係の深い学会とは連携を維持すること、ICD 講習会は補助金が得られるため第 71 回学術集會でも継続企画として依頼すること、学術集會の運営会社固定に関しては収益の面からも継続の効果を検証する必要があるため、第 72 回の学術集會から運営会社の固定を提案することが報告された。

### ⑥ICD-11 委員会（吉田 博 担当理事）

臨床検査のガイドライン JSLM2024 作成準備、第 70 回学術集会上に ICD-11 関連のシンポジウム企画を提案したことが書面により報告された。

#### 3. 第 69 回学術集会報告宇都宮 2022/11/17(木)～11/20(日)、山田俊幸 会長

2022 年 11 月 17 日（木）～20 日（日）に、栃木県総合文化センター、宇都宮東武ホテルグランデにおいて、山田俊幸会長（自治医大）のもと、メインテーマ：「地域社会に貢献する臨床検査」感染対策に配慮し対面で実施し、登壇不可の演者は動画で、特別な場合リモート登壇で講演いただき開催された。

主要プログラムは、特別講演 2、海外招聘講演 1、会長講演 1、教育講演 4、特別シンポジウム 1、学会賞受賞講演、学会推進プロジェクト研究結果最終報告/発表、シンポジウム 9、POC セミナー1、委員会企画 9、RCPC2、Catch up セミナー、医学会連合加盟学会連携フォーラム 1、ICD 講習会。

一般演題数は 304 題（口演・ポスター）、参加者数は（一般会員 981 名、非会員 347 名、大学院生 60 名、研修医・学生 16 名、招待者 82 名）合計 1,486 名であった。

臨床検査領域講習、共通講習は合計 32 企画、そのうち 19 講習をオンデマンド配信し、視聴人数は延べ 624 名、合計再生回数は 7,417 回となった。

協賛状況：ランチョンセミナー14 社（団体）、コーヒープレイクセミナー1 社、商業展示 6 社、学術展示 5 団体、書籍展示 1 社、プログラム集広告 17 社、バナー広告 2 社、寄付 1 社、その他物品提供協力 2 社であった。以上が書面により報告された。

#### 4. 第 70 回学術集会報告（長崎 2023/11/16(木)～11/19（日）、柳原克紀 会長）（柳原克紀 会長）

2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）に、出島メッセ長崎（長崎）において、柳原克紀会長（長崎大）、副大会長：谷川寛雄先生、木村由美子先生、事務局長：佐々木大輔先生、運営事務局：（株）コンベンションリンクエージが担当し、「未来を見据えた臨床検査～次なるステージへの課題と挑戦～」をテーマとして開催予定であること、ホームページが開設されたこと、一般演題を 5 月 12 日（金）～6 月 16 日（金）で募集予定であることが報告された。

#### 5. 第 71 回学術集会報告（長崎 2024/11/28(木)～12/1(日)、日野雅之 会長）（古川泰司 総務理事）

2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において、日野雅之会長（大阪公立大）のもと開催予定であり、事務局長：中前美佳先生（大阪公立大）、運営事務局：（株）サンプルネットメディカルコンベンションが担当することが書面により報告された。

#### 6. 第 12 回特別例会報告（東京 2023/4/22(土)、古川泰司 特別例会長）

2023 年 4 月 22 日（土）、大手町サンケイプラザホールにおいて、第 31 回日本医学会総会に合わせ日本医学会分科会として第 12 回特別例会（第 78 回関東・甲信越支部例会を兼ねる）を、古川泰司特別例会長（帝京大）、事務局長：横山直之先生ならびに奥藤由紀子先生、「臨床検査の未来を担う基盤と人～SDGs 3, 8, 9～」をテーマとして、2 シンポジウム、1 特別講演、特別例会長講演、ランチョンセミナーで開催予定であることが報告された。

#### 7. 第 32 回世界病理学・臨床検査医学会議について（サンパウロ、2023/9/5(火)～9/8(金)）（大西宏明 理事長）

2023 年 9 月 5 日（火）～9 月 8 日（金）、ブラジル、サンパウロで第 32 回 WASPaLM が開催予定であり、参加依頼がなされた。

#### 8. 臨床検査専門医・管理医認定試験について（東京 2023/8/6（日））（古川泰司 専門医試験実行委員長）

8 月 6 日（日）、帝京大学医学部で、学会専門医および機構専門医認定試験、管理医講習・認定試験を実施予定であることが報告された。

#### 9. 本学会からの関連団体派遣委員について（大西宏明 理事長）

前回理事会（2022年10月2日）以降に当会から推薦された委員等について書面により報告された。

**10. 臨床検査専門医の専門研修プログラムに関する情報提供について（大西宏明 理事長）**

日本臨床検査医学会ワークライフバランス委員会・専門医相談・サポートセンターが、専門医取得を検討している医師から相談を受けた際に適切に回答できるよう研修受け入れ体制の調査目的のアンケートを、2月28日に基幹施設統括責任者にメール配信し3月31日で行っていることが書面により報告された。

**11. LDT 検査に関するワーキンググループについて（大西宏明 理事長、松下一之 理事）**

松下一之理事のもと日本臨床検査医学会LDT 評価ワーキング（仮）で、検査技術のイノベーションにも必要な国内におけるLaboratory Developed Tests(LDTs)の考え方や定義の検討を進めており、現時点のまとめたものが示され、今後も日本臨床検査振興協議会で継続して進めていく予定であることが報告された。

**12. 日本医学会連合委託研究（COVID-19パンデミックと臨床検査体制）について（大西宏明 理事長、堀田多恵子 臨床検査室医療評価委員会担当理事）**

日本医学会連合門田班事務局臨床内科グループ委託研究の「COVID-19パンデミックと臨床検査体制」について、臨床検査室医療評価委員会でアンケート結果により詳細な報告書をまとめ、3月16日に日本医学会連合に提出したことが報告された

**13. 2023年度学会賞：功労賞・河合忠賞推薦依頼について（大西宏明 理事長）**

学会賞・功労賞に関する規定により、「功労賞の対象者は名誉会員または功労会員とし募集は行わない。功労賞の選考は理事会で行う」ことにより、7月30日で行った適切な候補者の推薦依頼がなされた。

**14. 2024年度からの名誉会員、功労会員、評議員の推薦依頼について（大西宏明 理事長）**

1) 功労会員の資格要件、各支部の功労会員該当者が提示され、支部より、9月下旬までに本人の承諾を得たうえでの功労会員推薦の依頼があった。

2) 評議員の資格要件、支部正会員の10%の評議員候補者定員数が示され、9月下旬までに、都道府県別、所属機関別に偏らないよう検討のうえでの各支部からの推薦依頼があった。

なお、それぞれの資格要件と名誉会員、功労会員該当者、支部からの評議員可能数については書面による確認依頼がされた。

**15. 支部規約について（大西宏明 理事長、田部陽子 会則改定委員会 委員長）**

2018年に支部規約雛形を作成し、それに基づき各支部に支部規約作成を依頼し5支部の規約が完成したが、その後、全支部の規約が完成しなかった。今回、支部総会・例会の会長は当会会員であること、支部総会・例会の開催方法については、関連学会の企画の一部とはせずに独立して開催すること等、あらたに必要な内容の改定を加えた支部規約雛形により統一した支部規約作成の提案があり、その方向で会則改定委員会で検討して、あらためて各支部に依頼することが報告され進めることとなった。

**16. その他**

**・支部活動費、第71回学術集会補助金、専門医試験費用の送金について（谷直人 会計理事）**

4月に支部活動費として一律20万円+（500円×2022年度支部会員数）で送金予定である、2022年度支部会計報告を提出依頼すること、第71回学術集会補助金として100万円、専門医認定試験費用として200万円を送金予定であることが報告された

**III 審議事項**

**1. 2022年度に係わる事業報告について（大西宏明 理事長、古川泰司 庶務理事）**

事業報告書が提示され、会議、会員数、関連団体行事、事業概要として経過及び実績、活動、各種委員会活動、英文誌の刊行、対処すべき課題として学会の活性化、社会が求める学会および機構専門医、管理医の養成、臨床検査に関わる倫理観の向上、法人の概況（主な事業内容、社員数、役員数と氏名）等を報告。

総会員数の減少がみられるが会費納入者は増加しており、会員マイページによる会費徴収の運用開始の影響も考えられる。総会員数の減少への対応については、今後、検討していくことが述べられ、そのうえで承認された。

## 2. 2022 年度に係わる会計収支決算報告について（久谷直人 会計理事）

2022 年度に係わる決算報告書として、貸借対照表、部門別の会計報告（一般会計、特別会計、アジア交流基金、学会賞基金）、監査報告書、第 68 回学術集会決算報告が提示された。

### ・一般会計

収支差額については 9 百万円の黒字。

収入：会費収入は増加している。専門医受験収入は機構専攻医の研修修了者を受験者として見込んでの予算であるが、研修延長のため予定通りとはいかなかったため。外販収入が減収しているが、本当は 350 万円ほどあったが一昨年までの外販委託先からの返品による請求が 100 万円ほどあり減収の要因のひとつ。新専門医制度関連収入がマイナス、e-learning 本数が少ないため、今後、教育委員会での作成を期待している。

支出：ほとんどの項目が予算より支出金額は低額で済んだ。

支部活動費は基本 20 万円+会員数×支部会員数を送金しているが支部で有効に使用いただいている。

### ・特別会計

支出として会員マイページシステムの補修費用があり予算内である。

### ・アジア交流基金

2022 年 10 月 7 日（金）～10 月 9 日（日）、神戸で開催した第 17 回アジア臨床病理・臨床検査医学会 (ASCPaLM) の補助金を支出した。今後、会計報告があり、もし収支差額があれば、学会に返金いただく予定である。

### ・学会賞基金

学会賞寄金、学会賞副賞とも予算内である。

### ・第 68 回学術集会報告

2021 年 11 月 11 日（木）～11 月 14 日（日）、富山で開催した第 68 回学術集会の収支報告。収支差額が 3 万円程であるが、学会からの補助金 100 万円からみると 97 万円弱の赤字となる。

## 会計監査（古田 耕 監事、諏訪部章 監事）

2023 年 3 月 4 日に学会事務所で会計監査を行い、事業報告、会計書類の確認をし、理事職務遂行、会計報告書類は正しく記載し合致しておりの確であると監査報告があった。ただし収入予算についてはそれに見合った予算建てを希望すること、学術集会からの返金が少なかった、学術集会を盛り立てて学会を補助できるように、学術集会補助金という項目名は準備金あるいは支度金と変更して返金していただくようにするのがよいとの指摘があった。そのうえで、2022 年度会計収支決算は承認された。

## 3. 各種委員会の規定について（大西宏明 理事長、田部陽子会則改定委員会委員長）

2022 年 10 月 22 日の理事会において、日本臨床検査医学会 細則に委員会規定を追記することが決定した。これを受け、各種委員会に委員会活動規定について作成依頼しまとめた委員会規定案が提示された。

個々のアドホック委員会規定作成についての質問があったが、短期間での活動のため、個々には作成せずにアドホック委員会細則により運用すると回答があった。そのうえで委員会規程集が承認された。

臨床検査点数委員会委員長より、委員会の活動内容により委員会名を保険診療委員会とする提案があり、臨床検査を追記して臨床検保険診療委員会とするのがよいのではと意見があり、臨床検査点数委員会で再検討し、次回理事会にあらためて提案いただくこととなった。

## 4. 学会賞・功労賞に関する規定の一部改定について（井上克枝 学会賞委員会 担当理事）

若手研究者奨励賞の受賞対象人数を若干名より 1 名、副賞 10 万円を 20 万円へ、研究の積み上げの必要性を考慮し、若手研究者奨励賞受賞後検査・技術賞まで 3 年間、学術賞への応募まで 5 年間の研究業績期間を設けること、若手研究者奨励賞と優秀論文賞の同一年内の重複受賞を可とする改定案が提示され、承認された。

## 5. 臨床検査専門医制度規程、臨床検査管理医制度規程の改定について（大西宏明 理事長）

日本専門医機構による認定制度への移行に伴うことと、その他必要なことの追加により現状を規程に反映させた臨床検査専門医制度規程と臨床検査管理医規定改定案が提示され、承認された。

#### 6. 利益相反委員会 COI に関しての検討事項について山崎正晴 利益相反委員会 委員長)

- 1) 企業から複数年度にわたる研究費等が供与されている場合の COI 自己申告書の記載方法について、1 企業から 2 年にわたり共同研究費を受け、単年 100 万円以下だが合計 100 万円を超える場合、年間 100 万円超ではないため記載の必要なしと判断し、COI に関する細則に追記する提案があり、承認された。
- 2) 企業所属会員の COI 開示について、学術集会発表に際し、企業所属会員から企業単独の成果の発表であり、他の企業・大学との COI はない場合、演題発表時に利益相反「なし」の開示書式を、演題発表時の冒頭スライドに所属先を掲示することとし、企業所属会員に関連する COI に関する細則は、第 4 条 註釈 6) であるが、アカデミアの施設・機関へ派遣されていない社員の扱いは記載されていないため同細則の改訂の提案があり、承認された。

なお、細則に、COI 申告書「年間 100 万円以上」「年間合計 100 万円以上」「100 万円以上」とばらつきがあるため文言の統一についての指摘があり、利益相反委員会で確認することとなった。

#### 7. 遺伝子関連検査に精通する臨床検査専門医の育成について (大西宏明 理事長、田部陽子 副理事長)

教育委員会のもと、遺伝子関連検査育成ワーキンググループの立ち上げを検討している。院内で遺伝子検査を行う際の精度管理責任者として対応できる医師、さらにはがんゲノム医療の拠点病院の要件を満たすような医師を育成することを目的として、遺伝子関連検査認定医（初級・基礎）、遺伝子関連検査専門医（中級・上級）の二段階での 2025 年、2026 年認証開始の方針の提案があり、承認された。

本件について、次項のとおり意見があり、本ワーキンググループで情報共有のうえ検討していくと回答された。

- ・病理学会も同様の認定を始めているが協調をお願いしたい。
- ・遺伝子関連検査に興味のある臨床検査技師も参加できるようにしてはいかか。これに対して、日本臨床検査同学院の臨床検査技師資格制度を行っているためすみ分けはしていただきたい。
- ・臨床検査専門医を取得したうえでの資格制度なのかに対して、検討中であると返答があった。
- ・遺伝子検査に関連した能力は臨床検査専門医にも必要な能力と考えるがどう考えるかについて、もっとレベルの高い能力を考えていると返答があった。なお、病理学会では、一定のレベルがないと受けられないため二階建てにしている。

#### 8. 2022・2023 年度臨床検査室医療評価委員会委員の追加について (大西宏明 理事長)

臨床検査室医療評価委員会委員として上蓑義典先生（慶應義塾大学）追加の提案があり承認された。

#### 9. 選挙管理委員会の設置について大西宏明 理事長)

2024・2025 年度理事、2024・2025・2026・2027 年度監事選挙のため選挙管理委員会を設置するが、委員長としてメ谷直人先生の提案があり承認された。メ谷先生には委員を選出して次回理事会に提案いただくこととなった。

#### 10. 「臨床検査医学講座のあり方ー日本臨床検査医学会の考え方ー」改訂について (大西宏明 理事長)

2018年7月7日の理事会承認の内容について、5年経過して時代のニーズの変化、適切ではない表現が見られるため、現状を踏まえた改訂案が提示され、承認された。

#### 11. 医師国家試験での検査値の基準範囲、および国家試験委員について (大西宏明 理事長)

医師国家試験に関する報告があった。

#### 12. 第 73 回学術集会 (2026 年度) 会長について (大西宏明 理事長)

学術集会会長は、これまでの開催地域、会員数、評議員数により決定しているが、常任理事会で確認のうえ順番により、北海道支部あるいは中国・四国支部より推薦いただくのがよいのではないかと提案があった。そして、学術集会企画委員会より、それに加えて関東・甲信越支部は会員数、評議員数が多いため、例えば甲信越地域から推薦いただくのがよいのではないかとの提案があり、総合して北海道支部、中国・四国支部、関東・甲信越支部（東京除く）から推薦いただくこととなった。

### 13. PHRに関するAMED公募申請の連携について（大西宏明 理事長、田部陽子 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会 担当理事・委員長）

AMED「令和5年度 医療・介護・健康データ利活用基盤高度化事業（医療高度化に資するPHRデータ流通基盤構築事業）」に係る公募（締切3月30日）にPHR普及推進協議会が代表申請する予定である。日本医療情報学会/糖尿病医療の情報化に関する合同委員会より、本申請における事業連携団体として、9臨床団体拡大会議の中に日本臨床検査医学会の学会名を記載させてほしいとの依頼があった旨の報告があり、承認された。

### 14. その他（古川泰司 総務理事）

2023年度の臨床検査専門医・管理医審議会と理事会の予定が報告された。

#### 【2023年度 審議会、理事会日程】

第1回審議会：6月16日（金）17:00～19:00

第2回理事会：7月8日（土）15:00～18:00

第3回理事会：10月を予定

### VI 閉会（田部陽子 副理事長）

田部陽子副理事長より閉会の言葉があり本理事会は閉会された。

以上

2023年4月1日

一般社団法人日本臨床検査医学会 理事会

理事長 大西宏明 ㊟

副理事長 田部陽子 ㊟

監事 古田耕 ㊟

監事 諏訪部章 ㊟